|  |
| --- |
| **平成29年度（2017年度）****社会福祉法人　いなほ福祉会****通園らっこ 児童発達支援事業　事業計画書** |

はじめに

平成27年4月、串本町・古座川町を事業区域として通園らっこが事業をスタートし、2年目は登録児童20名をこえるほどとなりました。又29年2月には津波の心配のない安心で安全な場所である上野山地区に新園舎が建設され、串本町、古座川町長の御立席のもと竣工式も挙行され無事終わり、毎日登園してくる子ども達の笑顔が輝いています。各行政関係機関をはじめ、法人理事評議員の皆様のご支援にこの場をお借りし感謝と御礼を申しあげます。本当にありがとうございました。

1. 事業の目的・方針

発達につまずきのある幼児や障害を持つ児童とその家族、特に串本・古座川地域

の子どもたちに通園の方法をとり日常生活における療育の場を提供し、障害の固定化

の予防や日常生活における基本的動作を習得し及び集団生活に適応できるよう、適切

な指導や援助を行い豊かな育ちを保障する。また保護者が見通しを持った子育てが行

えるよう具体的な生活の中で子育て上の困難に対する支援をしていく。

２、利用定員

定員　　10 　名　　　利用登録者 20　名確定　（Ｈ29年4月予定）

　　　　　　　　　　〈毎日通園14名・並行通園1名〉

３、職員体制

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **職種** | **定数** | **現員** |
| 管理者 | １名 | １名（兼務） |
| 児童発達支援管理責任者 | １名 | １名（兼務） |
| 保育士 | １名 | ３名 |
| 児童指導員 | １名 | ２名 |
| 指導員 |  | １名 |
| 給食調理員 |  | １名 |
| **合　　計** | ４名 | 8名 |

４、営業日及び営業時間

1. 営業日

月～金曜日（年末年始・夏期休暇・春期休暇を除く）

第１・３土曜日

1. 営業時間

月曜日から金曜日　（毎週火曜日の午前中は親子保育）

営業時間　月～金９：００～１５：００

　　　　　第１・第３土　　９：３０～１１：３０　適宜

５、２９年度の重点方針

1. 保育.療育を通して地域に.根づく実践をおこなう。

津波の心配のない場所に移転し、この地でしっかり根をはり事業を継続してい

　くためにも、地域のルールを守り特に園舎ができたことで人の流れも変わってしま

うことから保護者の送迎や親子保育での駐車等、近隣に充分な配慮を行い、職員はもちろん保護者等、関係者にはその旨徹底し車の運転に充分気をつける。

　又地域での祭事や催しごと、積極的に園舎を利用していただくことも含めて、

らっこの療育や実践について理解をしていただく。

発達支援

1. 保育・療育実践の創造・充実と職員集団の構築をめざす。

約2年間旧西向保育所でらっこの保育実践を創造してきたものを基盤に、新園舎での保育に応用し、各々の職員が主体的に保育実践の構築に努める。又日々の保育がリーダーを中心としながら職員集団全体で全体を把握していき、更なる保育実践の創造と充実をめざす。

1. 個別支援計画を職員・保護者で共有し、子どもの健やかな育ちを保障する。

居住町で行われる発達相談に職員も同席し、子どもの発達状況や発達課題等を保護者と共有する。又同席した職員の発達相談報告や保護者の思いや希望を反映した個別支援計画をもとにケース検討を定期的に実施し、子どもにかかわる職員が発達課題や到達目標等を理解しらっこへ通園している子ども達の育ちを保障する。

　家族支援

1. 家族の子ども理解（障害受容）を支える

毎日の送迎・ノート・親子保育・学習会・家庭訪問・個人懇談等で保護者の状況を把握し保護者の思いや願いを聞きながら、職員間で情報共有し家族の障害受容を支えていく。特に毎日の送迎で朝は送迎体制をとるが、15時の帰りの迎えは保護者に来ていただき雨でない限り、園庭からの保護者の迎えを実施し、15時以降の園庭解放を行いそこへ職員も一定時間関わりながら情報交換や共有を行う。

 又保護者会活動を保護者が主体的におこない、風とおしのよい園運営を行うとと

もに、情報共有を行う。28年度にできたお父ちゃん会に不定期に行われる会合に協力し、父親の出番をつくる。

　地域支援

　⑤　串本地域の子育て支援システムの一つとして関係機関との連携をすすめる。

＊関係機関による定期的な情報共有会議への参加をする。

＊通園らっこの利用に際し計画相談の必要性があるが、串本町保健師との調整で受給者証取得のスタート窓口を保健師とともにたてるセルフプランとし、保護者の精神的負担を少しでも減らしていく。又らっこに在籍していて就園をする保護者については園とともにセルフプランをたてわんぱく教室の利用を２９年度前半行い、年度後半は串本町保健師・保育士が実施しているおひさまくらぶへの移行を進めていく。

＊地域生活支援事業のメニューである巡回支援専門員整備事業等の活用を今年度は古座川町もおこない、串本・古座川両町の依頼を受け町内の保育所・幼稚園への巡回相談を保健師と共に訪問し、気になる子どもの保育について療育の立場からアドバイスを行い一緒に考える。

1. らっこでわんぱく教室を実施し、おひさまくらぶとの調整を行い町内のフォローシステムの一部を担う。

　　串本町・古座川町で実施するおひさまくらぶと通園らっこで実施するわんぱく教

室への参加対象者を関係機関の調整会議の中で明確にし、基本的に発達相談等で

療育を勧められている子どもに対してはわんぱく教室を勧め、その旨を理解しわ

んぱく教室を利用してもらう。教室ではダイナミックな遊びの保障や主人公とな

る保育を行い、保護者には母子分離での交流や学習をふやし、わんぱく教室に通

う保護者の子ども理解（障害受容）を支える。

６、利用者への福祉サービス

1. 日課

(月～金曜日)

9:00 　 10:00 11:15 12:45 14:00 14:15 15:00

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |

登園　 　散歩・製作　　給食　　　　午睡 　　起床　　おやつ 　あつまり

　　自由遊び　音楽リズム等　　　　着替え　　　 着替え　　　　降園

1. 保育・療育支援

＜ねらい＞　子どもはほぼ毎日、１日６時間程、母親と離れ、保育者による配慮と適切な指導や援助をうけながら、生活や遊びを通して、生活のリズムや基本的な生活習慣などの確立をめざし、乳幼児期の豊かな育ちを保障する。

 保護者・家族とともに、行事や学習会を通し、育ち合う保育をめざす。

＜内容＞

　　①道具を使った遊びや活動や、また毎日の散歩や外遊び、音楽リズム、絵本の読み聞かせ手遊びなどを多くとりいれた保育・療育を行う。

　　②子ども自身が見通しを持ってわかって楽しめ、生活リズムをつけ、食事・排泄・睡眠など、基本的な生活習慣を身につける保育・療育をおこなう

③就園や就学について保護者とともに考え、見学や体験入園などの取り組みをおこなう

1. 親子保育の実施・懇談会・学習会の開催

週１回　火曜日９時から１１時まで、親子保育を実施する。

年数回の保護者懇談会・年１回の家庭訪問・年１回の個別懇談を実施し保護者学習会を、通園くじら・めだかと共に開催とする。

1. その他必要な援助

園での発達相談の開催と市町村による発達相談等への資料提出と同行を行う

個別療育への同行・個別相談への同行、又受診等への資料作成

1. 健康管理

通園らっこで嘱託医による健康診断を実施していく。

1. 送迎サービス

基本的には保護者の方でお願いをするが、車を運転できない又遠方で通所困難等の方でお困りの方については、園と協議を行い送迎サービスを行えるよう努力する。保護者の要望を事前にきき送迎コースを作成する。

1. 給食サービス

一食につき２００円（給食及びおやつも含め）となる。

 （８）その他必要な援助

市町村による発達相談・訓練機関や医療受診等への資料提出と同行を行う。

７、諸記録の整備

保育日誌・ケース記録・年間２回の個別支援計画を行い、記録とし5年間保存します。

８、利用者・家族のプライバシーの確保

人権擁護の立場から個人のプライバシーの保護並びに配慮を徹底する。

　職員は正当な理由なく、その業務上知り得た利用者及び家族の秘密を第三者に

漏らしてはならない。更に職員でなくなった後においてもこれらの秘密を保持

すべき旨を、職員との雇用契約に明記するなど必要な措置を講じる。

９、非常災害対策（安全管理）

天災及びその他の災害は発生した場合、職員は利用者の避難等適切な措置を講じる。また、防火責任者は、非常災害に関する具体的な計画を立て、職員に周知徹底をはかるとともに、避難経路及び協力機関等との連携方法を確認し、災害時には、避難等の指揮をとる。又非常災害に備えるため、避難、救出その他必要な訓練を定期的に行う。

・避難訓練の実施 （1年に12回、1ヶ月に1回）

・消防設備等の点検（1年に2回）

・消防設備自主点検（1年に12回）

・防犯訓練　　　　（1年2回）

・救命救急講習　　 （1年に1回）

１０，津波対策

　避難場所は通園らっこと定める。

地震による津波が海抜72メートルの通園らっこまで来る可能性は低いと考え、基

本的に、地震及び火災による避難訓練を定期的に行い、おこった際には動かず新

園舎にとどまり、

1. 「帰宅困難児童（宿泊も想定した）対策」
2. 「保護者との連絡方法の確立」
3. 「備蓄品の量と質の増大」
4. 「職員の帰宅確保」等について具体化を急ぐ。

又上野山地区の自主防災組織が昨年度でき、地区としての備蓄を確保する等から始まったばかりと言うことである。通園らっことして地区の自主防災組織の一員になり地区の訓練等に参加する。

１１、虐待防止・人権擁護のための措置

利用者の人権擁護・虐待防止等に対応するため、責任者及び推進委員の配置、相談窓口の設置等苦情解決体制に整備、職員に対する研修その他の必要な措置を講じる。

１２、苦情解決のための措置

利用者家族からの苦情に迅速かつて適切に対応するため、相談窓口の設置その他の必要な措置を講ずる。

　苦情解決責任者　　　　　　細野　桂子

　　　苦情解決担当者（受付）　　榎本　郁美

　　　第 三 者 委 員 　串本町役場福祉課

１３、職員（援助者）の援助技術の向上

（１）職員会議の実施（　月２回　）

　（２）研修の実施

　　　・研修計画の策定

　　　・各種研修会への参加

　　　　発達の学習・障害についての理解・就園/就学についての学習等

　　　・各々の職員の目標設定並びに人事考課を実施する。

１４、事務・財務管理

1. 会計処理の適正化をはかる。
2. 請求事務の効率化・適正化をはかる。

出欠表・記録表の実務まで職員でおこない、事務センターへ送る

1. 経費の省力化をはかる。

１５、その他の業務

1. 和歌山県障害児保育運動連絡会へ結集し、その運動の一翼を担う
2. 地域の啓発活動（地域住民の障害への理解の促進）につとめる
3. 地域との協力につとめる

　年間行事計画

春：入園式／春の遠足／健康診断／尿検査／家庭訪問／保護者懇談会／学校

　見学／

　夏：夏祭り／進路アンケート実施

　秋：運動会／個別懇談／保育所見学

　冬：クリスマス会／もちつき大会／生活発表会／お別れ遠足／保護者懇談会

　　　　／卒園式